第 11 回鎌倉検定 1 級ガイダンス サマリー(要旨)

鎌倉観光文化検定 1 級ガイダンス 講師原田寛

1. ガイダンスの趣旨

このガイダンスは、2・3 級が全問 4 択であるのに対し、記述式問題など出題形式に異なる部分があるため、事前に出題方式などを説明するために設定したもので、対策講座ではありません。従って、ガイダンスを聞かなくても、過去の問題を鎌倉検定のホームページで見ていただければ、おおよその想像はしていただけると思われます(もちろん改善努力をしていますので、まったく同じ設問方式というわけではないと思われます)が、ガイダンスのサマリーを鎌倉検定ホームページに掲載致します。

2. 試験の全体像

1 級は鎌倉に関する「正確で詳しい知識」を求める試験ですが、入試問題のように振り落とすことを主眼としていませんので、過度にマニアックな出題はできるだけ避けるようにしているようです。また、入試などと違い定員がありませんので、基準点に達した方は人数に関係なく全員合格となります。出題は全 60 問で、このうち 4 択問題が 1/3(20 問✖1 点)で、残りの 2/3(40 問✖2 点)が記述式の問題になると予想され、記述式のウェートが高いのが特徴です。例年は、記述式のうち 5 問がルビ振り（振仮名）問題、単純に漢字で記入する問題が 5 問、残る 30 問が虫食い部分を埋める問題でした。平均的な 1 級受験者でも、解答に 80 分近い時間が想定され、全問を見直す時間はほとんど無いと思われますから、ケアレスミスに注意して慎重に解答して下さい。また、思い出せない設問に過度に時間を費やさず、次に進むなどの見極めが極めて大切になります。試験問題は『読んで分かる中世鎌倉年表』からも出題されることになっていますので、どの程度出題されるのか心配されている方もいらっしゃると思います。さまざまな出題方式の中に部分的に紛れ込んでいることがありますので、厳密に何問とは言いにくいので すが、数問程度に関係してくると思われます。例年の傾向を見ても、2～３問程度ですから、満点を狙うなら別ですが、合格だけが目標であれば思い切ってサブテキストを捨ててしまうのも受験テクニックとしては一案だと思われます。また 3 年前から、新版（平成 23 年

版）テキストに準拠して出題されていますので、旧版のテキストで勉強すると不利になりますから注意してください。毎回10%以内とされているテキスト外の出題については、時事問題を押さえておく必要があります。昨年は長谷小路周辺遺跡で鎌倉初の古墳時代の箱式石棺墓が発見されたという大きなニュースがありましたが、今年は鎌倉歴史文化交流館が5月に開館したこと、市指定有形文化財が新たに3点追加されたことなどが大きなニュースと思われます。鎌倉歴史文化交流館はぜひ一度訪れて、関係資料などを集めて目を通しておくことをおすすめいたします。そのほか、これまでの傾向では鎌倉市のホームページ、主要な寺社のホームページなども出典になっているようですので、チェックしておいてください。そして、最近の傾向として境内図や地図、写真を使った出題が例年されている点にも注意が必要です。テキストで具体的に触れていなくても、さすがにこの建物くらいは見ればわかるでしょうといったスタンスから、建物や仏像などの写真を使った問題がテキスト外として出題されるケースです。いずれにしても、1級の試験も今回で9年目になりますから、過去問の類似問題が出題される確率が高くなっています。入口と出口が逆になっていたりすると思われますが、過去問題は必ず丁寧に確認しておいて下さい。

3.4 択問題

2・3級の設問のように単純に正誤を問う問題だけではなく、多くの問題に若干の工夫が施されています。例えば合戦とそれに関わる人物、作家名・画家名と関連する寺社名、邸跡と寺社名、仏像と寺院名、山号と寺名、開山や開基と寺名、歌碑や句碑と寺名、十井や五名水と寺院名、建築物と寺社名、ハイキングコースと周辺に点在する物件などの組み合わせの正誤を問う問題が出る可能性があります。仏像については有名な仏像や伝説、ニックネームのある仏像、文化財指定という観点に加えて、七福神や十三仏と寺院名という観点を忘れないで下さい。また、特定の事柄や場所、人物などについて記述された文章がいくつかある中で、「以下の源頼朝について書かれた文章のうち、誤っているものは幾つあるか」といったように、正しいもの、あるいは間違ったものが幾つあるかを4択で答えるような問題も想定しておいて下さい。この類の問題で、設問の流れはあっているのですが、該当する寺院名や氏名などの固有名詞だけが入れ替わっている場合がありますから特に注意してください。更に、年号をストレートに問う問題は基本的には出題されたことがありませんが、何人かの人

物やいくつかの場所、歴史的な事柄、書籍名などを並べて、正しい順番はどれかといった問題は想定されます。執権の順番や有名御家人の時代順（それの関連事項）、寺社の創建年、主要な寺院の有名な住職の順、戦乱の年代、著名な鎌倉関連の書物の発行年代などの年代順を問う類です。いずれにしても、2・3級のように消去法で正解を導くのは難しいので、やはり正確で詳しい知識が求められることになります。また、写真を見て答える問題が毎年出題されていますので、理想的には鎌倉を実地に歩くことをお勧めしますが、最低限テキスト掲載の写真や口絵とそのキャプション(写真を説明するために添えられた文字情報)については入念にチェックしておきましょう。「以下の写真のうち国宝に指定されているのはどれか」とか、「写真の寺にある文化財は以下のどれか」といった類いの問題です。特に注意が必要なのは、テキストの文化財の項目では、国宝についてだけ詳述され、重文はほんの一部しかリスト化されていません。一方、各寺院の項目には国・県重文や市有形文化財が記述されています。従って、これらを一度リストアップしておいた方が安全です。また、記述式では以下の写真の寺社名や建物名を書きなさいといった類いの出題も考えられます。大寺院については、境内の塔頭名や建物名とその位置もチェックしておいた方が安心です。また、「〇〇〇について述べた以下の文章のうち正しい(誤った)ものは幾つあるか」といった問題を想定して、4 択にしやすい項目(2～3 つしか重要点がなければ 4 択にしづらい)は読みこんでおく必要があります。

4. 記述式問題

あくまでも記述式の問題であって、論述式(〇〇について述べよ)の問題は出題されません。具体的には、ある文章の中に何箇所かの虫食いがあり、そのカッコ内を埋める形式がこれまでの傾向です。虫食い 2 箇所を両方正解して 2 点の配点になっている問題については、片方だけ正解しても得点されません。また、設問によっては「漢字で記入せよ」などと最初に記述のルールが明示されていますので、見落とさないように注意してください。「漢字で」と指定されている場合は、テキストに記載されている漢字を記入しないと得点されませんから注意して下さい。鎌倉に関係の深い人物や書名、地名、文化財名などの固有名詞を答えさせる場合に、漢字で記入せよという指示が入っています。あまりに常識的なものを除いて、一般名詞はとくに指示がなく、漢字でも、平仮

名、カタカナでも構わないという設問になっています。そこで、“佛”日庵、“圓應”寺などのように、テキストでの表記が旧漢字になっている名称をチェックしておくのは当然ですが、“化”粧坂ではなく“仮”粧坂、朝“比”奈ではなく朝“夷”奈など、テキスト準拠の表記や、他にも“太”平記、“大”平山のようにまぎらわしい文字や、甘縄神明“神社”のような固有名詞を明確にしておく必要があります。七切通の名称について「坂」と「切通」が混在していますから注意してください。また、史跡指定名称が「切通し」ではなく「切通」となっている点も注意が必要です。また虫食いの箇所が(〇〇)“寺”となっているところに「建長寺」のように記入してしまうと、結果として建長寺“寺”のように“寺”の字が重複して不正解になりますので注意して下さい。その他では船“おろし”と船“祝い”、“潮”神楽と“汐” まつり、“初”えびすと“本”えびすなど、まぎらわしい名称を正確に書き分けられるようにしておきましょう。ルビ振り(振仮名)問題については、散在ヶ池(さんざがいけ)、筋違橋(すじかえばし)、白鷺池（びゃくろち）、小動神社（こゆるぎじんじゃ）、大巧寺(だいぎょうじ)、錦屏山（きんぴょうざん）、鷲峰山（じゅぶせん）九品寺(くほんじ)、葛原岡神社(くずはらおかじんじゃ)、大塔宮（おおとうのみや）補陀洛寺(ふだらくじ)、光触寺（こうそくじ）、鉄ノ井(くろがねのい)、底脱ノ井(そこぬけのい)、手斧始式(ちょうなはじめしき)、十二所（じゅうにそ）、草鹿(くさじし)、大注連祭(おおじめまつり)のような、誤読しがちな単語を捜してチェックしておいて下さい。また、難読の文化財名（例：籬菊螺鈿蒔絵硯箱、初音蒔絵火取母、葡萄蒔絵螺鈿聖餅箱、沃懸地杏葉螺鈿平胡籙など）も注意してください。ルビ振り問題では、人名はこれまでに三浦大介義明（みうらおおすけよしあき)以外に出題されたことはありません。

5.効果的対処法

有名寺社(鶴岡八幡宮、鎌倉宮、建長寺、円覚寺、東慶寺、覚園寺、瑞泉寺、光明寺、壽福寺、高徳院、長谷寺など)についてはキーワードを関連づけて覚えておくと効果的だと思われます。建長寺を例にすると、日本初の禅専修道場、鎌倉五山第一位、開山は蘭渓道隆(大覚禅師-日本初の禅師号)、開基は第五代執権北条時頼(鉢の木伝説)、梵鐘は国宝で物部重光作(鎌倉三名鐘)、地獄谷(心平地蔵)、法語規則(国宝)、ビャクシン(開山お手植え)、葛西善蔵『おせ

い』、半僧坊大権現(烏天狗)などがつながっていれば解答のヒントになると思われます。加えて、国指定史跡なども確実に記憶しておきましょう。「以下の七切通のうちで国史跡に指定されていないものはどれか」といった類の設問が考えられます。また、主要な歴史上の人物(源氏三代、主要な執権[1・2・3・5・8・9代]、主要な足利氏、名僧など)についても、同様の勉強法をお薦めします。どちらの例も、歴史・寺社・文化財・文学など、複数の章にまたがっている項目があるため、このように一度整理しておくと効果的です。さらに、出題者が実際に問題を作成するときのことを考えると、別称やニックネームのある寺(竜巻寺・ アジサイ寺・コケ寺など)や伝説が残されている仏像(頬焼阿弥陀・身代わり地蔵・矢拾地蔵／塩嘗地蔵など)などは設問を作りやすいので要チェックと思われます。植物に関連した設問では、各植物を代表する寺社(たいていは各植物の項の最初の方に記述されています)や、英勝寺のヤマブキのような伝説や史実にまつわる植物、固有名称のある植物(覚園寺の太郎庵・英勝寺の侘助・荏柄天神社の古代青軸・安國論寺の源平枝垂れや妙法桜・瑞泉寺のオウバイなど)も設問を作りやすいため、出題されやすい傾向が見られます。鎌倉で育成された玉縄ザクラのような植物も、それだけで一問作成できますので要注意です。その他では、滑川なら上流から順番に七つの別称、ハイキングコースなら起点と終点、沿線の史跡など、文学では書名、作者、関連寺社などを整理しておくと良いと思われます。また、名誉市民（初代、女の初代、最新）なども一応頭に入れておきましょう。最後に見落としがちですが、口絵とそのキャプションにも十分注意してください。

Q&A

Q:昨年の荏柄天神社の関する写真の問題で、拝殿または社殿を正解とし、本殿を誤答とされたが、納得できない。
A:一般的な会話として本殿・幣殿・拝殿を含めた社殿を本殿とよぶことはたしかにあるとは思われるが、正確な知識としては拝殿は本殿ではなく拝殿とこたえて正解。とくに荏柄天神社の場合、本殿だけは文化財としてかなり貴重なので、幣殿・拝殿とは明確に区別したいという意味が込められていると思われる。

Q:昨年の虚子立子記念館の看板の文字について、小泉淳作の字という情報はど

こにも載っていないので不適切ではないか。
A:星野立子が立ち上げた同人「玉藻」の会報の表紙を、生前小泉淳作が担当していたことを知っていれば、容易に想像ができるが、たしかに周知性は低いと思われる。毎年、反省会においてはそのような指摘をして、繰り返さない努力はしているが、講師の立場としてはそれ以上答えようがない。

Q:今年も映画やドラマから出題される可能性はあるのか。また、それらと観光は関係があるのか。

A:この検定は観光検定だけでなく文化検定でもある。従って、アニメやドラマ、映画も対象の内と考えられる。小津監督の映画はテキストにも掲載され、度々出題されている。また近年では「最後から二番目の恋」や「海街 diary」が出題されている。鎌倉を舞台とした、ヒット作品は出題される可能性はある。